

脱原発大賞の金賞を受賞し、笑顔を見せる小木曾茂子事務局長(手前左)。右は小泉純一郎元首相=7日午後、東京都品川区で



初の脱原発大賞

原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟(原自連)は7日、脱原発や自然エネルギーに継続的に取り組む団体を表彰する授賞式を東京都内で開催した。第1回の「脱原発大賞」の金賞は新潟県内を拠点に活動する市民団体、「さようなら柏崎刈羽原発プロジェクト」が受賞した。

同団体は2007年の中越沖地震を機に設立。東京電力の柏崎刈羽原発の再稼働に反対する運動を続けてきた。表彰状と副賞20万円を贈られた事務局長の小木曾茂子さん(66)=新潟県津南町=は「今後も柏崎刈羽原発を止めることに全力を尽くす」と語った。

「さようなら柏崎刈羽」受賞

同賞には全国31団体が応募。銀賞は「反原発自治体議員・市民連盟」、銅賞は「常総生活協同組合」、審査員賞は「再稼働阻止全国ネットワーク」、「首都圏反原発連合」が受賞した。

再生可能エネルギーに取り組んでいる団体が対象の「自然エネルギー大賞」は金賞に、徳島県内の住民ら太陽光やバイオマスなど幅広い事業に取り組む「一般社団法人・徳島地域エネルギー」が選ばれた。25団体が応募。銀賞は「会津電力」、銅賞は「市民エネルギーちば」、審査員賞は「つながるズ」が受賞した。

原自連顧問の小泉純一郎元首相も出席し、「日本は原発ゼロで十分に発展できる。皆さまの活動が日本のエネルギー政策に大きな影響を与える」とエールを送った。

(伊藤弘喜)

原自連が市民団体表彰